形容詞述語文における助詞「で」の文型と用法*

朴 海 煥**
(e-mail: parkhh@sookmyung.ac.kr)

目 次

1. はじめに
2. 「N2は・が＋N1で＋形」
   2.1. 「特異、意識感覚、繁忙、視覚、嗅覚」判断の原因
   2.2. 「特異」判断の背景
   2.3. 「満足充分」判断の基準
3. 「N2で＋N1は・が＋形」
   3.1. 「不在、能力」判断の対象
   3.2. 「可能性、調子」判断の基準
4. 「N3は(が)＋N2で＋N1が＋形」
5. 「N3は(が)＋N2は(が)＋N1で＋形」
6. おわりに

1. はじめに

本稿は今まで行ってきた現代日本語形容詞述語文についての文型と用法研究の内容を総合的な観点からまとめる作業の一部である。今までの拙稿では、まず第1段階の作業として日本語の形容詞述語文の最下位意味項目である27の個別意味項目の単位について具体的かつ詳細な分析と考察を行った。次に第2段階の作業としては第1段階の27の個別意味項目の単位の分析の結果に基づき、その上位意味項目である「抽象的関係、精神及び行為、自然現象」などの三つの意味グループの観点から分析と考察を行った1)。今までの一連の研究においての基本的な考え方は文型論

* 본 연구는 숙명여자대학교 2012학년도 교내연구비의 지원에 의해 수행되었음(과제번호 1-1203-0140).
** 淑明女子大学校 教授、日本語文法
www.kci.go.kr

の観点に基づいている。ここでいう文型論とは述語形容詞を軸として結合する名詞句と助詞の三者間の結合の構造とその構造を決定する原因及び背景である語の意味的特徴との関係を文型の面から分析する、という観点である2)。本稿は上記のような今までの研究の結果をベースにし、日本語形容詞述語文について助詞の観点からその文型と用法を分析考察する作業の一部である。具体的には助詞「で」の文型と用法についての分析と考察を目的とする。3)

今までの拙稿の研究の結果、日本語の形容詞述語文に現われる助詞「で」の主要文型は「N2は・が＋N1で＋形」、「N2で＋N1は・が＋形」、「N3は(が)＋N2で＋N1が＋形」、「N3は(が)＋N2は(が)＋N1で＋形」などの4種類であった。以下、本論では上記の4種類の文型ごとの主要用法、述語形容詞や名詞句の意味特徴と助詞の意味役割など各用法ごとの文型的な特徴、他の用法や文型との関係、他の助詞との関係や接点などの内容について分析と考察を試みることにする。

2. 「N2は・が＋N1で＋形」

「N2は・が＋N1で＋形」文型の持つ主要な用法は「特異、意識感覚、繁忙、視覚、嗅覚」などの判断の原因、「特異」判断の背景、「満足充分」判断の基準などの3種類である。助詞「で」はN1項目に使われ、述語形容詞の判断の原因や背景や基準の働きをする。このような3種類の用法の区別は主に述語形容詞と共起するN1項目の名詞句の意味特徴によって分けられる。

2.1. 「特異、意識感覚、繁忙、視覚、嗅覚」判断の原因

形容詞述語文の文型における助詞「で」の用法の中で最も広い範囲で使われるのがこの述語判

1)形容詞の意味分類については抽象的関係(人間や自然のあり方やわく組に関するもの、「真正、関係、不在、可能性、特異、良適、調子、力、時、形、量、程度」などの12の下位意味項目)、精神及び行為(人間活動そのものの様子、「意識感覚、感情、賢愚、能力、詳不詳、繁忙、吉凶、身上、経済」などの九つの下位意味項目)、自然現象(自然物及び自然現象など人間の主体的活動の外界に存在するもの、「視覚、聴覚、嗅覚、味覚、材質、気象」などの六つの下位意味項目)などの3グループ、27下位意味項目に下位分類して扱ってきた。これらについての研究結果の出典情報は論文の末尾にまとめてある。

2)これらの内容以外の各意味項目の形容詞の分類の基準と対象形容詞、対象文型の抽出の過程、各種の表記や記述の基準などの内容についての記述は紙面の関係で省略する。詳しくは既刊の拙稿を参照されたい。

3)助詞の観点からの分析に関する拙稿には下記のようなものがある。本稿はこれらの研究と上記の3グループ27下位意味項目についての既刊の研究の内容を参考にして修正と加筆を施したものである。(1996.a)「形容詞文における助詞「に」の用法」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』41-3 早稲田大学大学院文学研究科、(1996.b)「形容詞文における助詞「と･から･で」の用法」『国文学研究』119 早稲田大学国文学会、(2012.a)「形容詞述語文における助詞「と」の文型と用法」『日本語学研究』第35輯 韓国日本語学会、(2012.b)「形容詞述語文における助詞「から」の文型と用法」『日本言語文化』第23輯 韓国日本言語文化学会。

www.kci.go.kr

断の原因の用法である。述語判断の原因の用法は主に「特異、意識感覚、繁忙、視覚、嗅覚」などの意味を表す形容詞述語文で多く現われる。この「N2は・が＋N1で＋形」文型の助詞「で」の項目はN1項目に来るのが一般的ではあるが、二つの名詞句の項目はその順序の交替が可能な場合が多い。この他にもこれらの述語判断の原因を表す各意味グループの形容詞述語文の2項目文型にはN1項目の助詞「で」の役割、名詞句の項目の順序の交替の可能性、助詞「で」と「に」との交替の可能性など共通点が多いが、各意味グループの述語形容詞の意味によって共起する名詞句の意味も異なる。

2.1.1. 「特異」判断の原因

この用法は「特異」の意味を表す本義の形容詞「おかしい」に多く見られる表現である。本来、「特異」の意味を表す本義的形容詞の代表的な語は「おかしい、珍しい」の2語であるが、「おかしい」は主にこの「特異」判断の原因の用法に、「珍しい」は主に「2.2.」の「特異」判断の背景の用法に多く現われる。この用法の「特異」判断の原因を表す名詞句は助詞「で」を取ってN1項目に使われる。

(1)勇三郎の大阪弁の抑揚は江戸暮らしが長かったせいでおかしい。(骨よ13、応用)
(2)ふと見ると隊長は半白髪の老人でおかしい。(湿原56)

この文型のN2項目には「隊長、勇三郎の大阪弁の抑揚」などのような「特異」判断を受ける主体を表す名詞句が來る。名詞句の意味には特別な制限はなく、人間活動の様子や結果、または自然現象などのようなあらゆる意味の名詞句が使われる。N1項目には「特異」判断の原因を表すもので、主に「半白髪の老人、江戸暮らしが長かったせい」などのようなN2項目の名詞句の特徴を表す具体的な意味の名詞句が使われる。N2項目の名詞句の意味に特別な制限がないため、当然N1項目の名詞句の意味範疇も特定できない。

この文型の助詞「で」の項目はN1項目に来るのが一般的ではあるが、次のように項目の順序の交替が可能な場合が多い。ただし、助詞「で」の「に」への交替は不自然な場合が多い。

(1-1)江戸暮らしが長かったせいで勇三郎の大阪弁の抑揚はおかしい。
(2-1)ふと見ると半白髪の老人で隊長はおかしい。
(1-2)*勇三郎の大阪弁の抑揚は江戸暮らしが長かったせいにおかしい。
(2-2)*ふと見ると隊長は半白髪の老人におかしい。

2.1.2. 「意識感覚」判断の原因

この用法は「意識感覚」の意味を表す形容詞「痛い、痒い、苦しい、煙い、快い、だるい、つら(辛)い、眠い、眩しい、やさ(優)しい、柔らかい」などに多く見られる用法である。「意識感

www.kci.go.kr

覚」判断の原因を表す名詞句が助詞「で」を取ってN1項目に使われる。

(3)私は二日酔いで苦しい。(IPAL519)
(4)私は睡眠不足で眠い。(IPAL905)

この文型のN2項目には「私、今日」などのように「意識感覚」を感じる主体として主に人間を表す一人称の名詞句が使われるが、その他にも述語判断の背景としての時間や空間を表す名詞句が使われる場合も多い。このN2項目の「意識感覚」を感じる一人称の主体は実際の言語表現では省略される場合が多い。N1項目には「意識感覚」の原因を表すもので、「二日酔い、睡眠不足」などのような人間の行為や自然現象を表す意味の名詞句が使われる。

この文型の助詞「で」の項目も「特異」判断の原因の用法と同様にN1項目に来るのが一般的ではあるが、次のように二つの名詞句の項目の順序の交替が可能な場合が多い。また、助詞「で」の「に」への交替も不自然な場合が多い。

(3-1)二日酔いで私は苦しい。
(4-1)睡眠不足で私は眠い。
(3-2)*私は二日酔いに苦しい。
(4-2)*私は睡眠不足に眠い。

2.1.3. 「繁忙」判断の原因

「繁忙」判断の原因の用法は述語判断の原因の用法の中で最も中心的な表現で、その特徴も最も多様である。この用法は「N2は・が＋N1に＋形」文型とともに「繁忙」の意味を表す代表的な形容詞「慌ただしい、忙しい」の主要文型の一つで、「繁忙」判断の原因を表す名詞句は助詞「で」を取ってN1項目に使われる。

(5)月末は事故の処理で慌ただしい。(IPAL171)
(6)神父はまもなく琉球経由で帰国する支度で忙しい。(女の124)

この文型のN2項目には「月末、神父」などのように「繁忙」な状況の持ち主としての人間関係の名詞句や「繁忙」判断の背景としての時間や場所などを表す名詞句が使われる。N1項目には「繁忙」判断の原因を表すものとして「事故の処理、帰国する支度」などのように主に仕事などに関する具体的な人間活動の内容を表す名詞句が使われる。この文型の二つの名詞句も次のようにその項目の順序の交替が可能な場合が多い。また、この文型の助詞「で」は「に」との交替も可能な場合が多いが、これらの助詞の特徴については後述に回す。

www.kci.go.kr

(5-1)事故の処理で月末は慌ただしい。
(6-1)まもなく琉球経由で帰国する支度で神父は忙しい。

この文型のN1項目の助詞「で」の名詞句は「繁忙」判断の原因を表すもう一つの主要文型「N2は・が＋N1に＋形」のN1項目の助詞「に」の名詞句との接点が多い。次は「N2は・が＋N1に＋形」文型の用例である。

(7)深津は食べるのにいそがしかった。(その年272)
(8)親たちは日程と値段のチェックに忙しい。(隣の44)

この文型のN1項目には助詞「で」の「繁忙」判断の原因を表す名詞句の代わりに助詞「に」の「繁忙」判断の対象を表す名詞句が使われるが、N2項目とN1項目の二つの名詞句の持つ意味特徴はほとんど似ている。そのためこれらの助詞「に」と「で」は次のように文の結果的な意味をそれほど変えず相互の交替が可能である。

(5-2)月末は事故の処理に慌ただしい。
(6-2)神父はまもなく琉球経由で帰国する支度に忙しい。
(7-1)深津は食べるのでいそがしかった。
(8-1)親たちは日程と値段のチェックで忙しい。

このような「N2は・が＋N1で＋形」文型と「N2は・が＋N1に＋形」文型の助詞「で」と「に」の役割の相違点は「で」の名詞句が「繁忙」判断の原因の性格を持つのに対し、「に」の名詞句は述語判断の純粋な対象の性格を持つ点、「で」の名詞句が比較的に長期的で複雑な仕事や行為を表す意味特徴を持つのに対し、「に」の名詞句は比較的に短期的で簡単な一回性の仕事や行為を表す意味特徴を持つ点などである。前者は両文型のニュアンスの違いを生じさせる原因、後者は両文型の接点を生じさせる原因であると考えられる。実際の言語表現においてはこのような両助詞の相違点の特徴よりは接点の特徴の方が活発に働き、両助詞同士の交替が頻繁に行われるものと推測される。

また、「繁忙」の総括的な状況を表す総主構文「N2は(が)＋N1が＋形」文型のN1項目の助詞「が」の用法の一部にも「N2は・が＋N1で＋形」文型の助詞「で」の用法と重なる接点がある。その接点は「N2は(が)＋N1が＋形」文型のN2項目には「繁忙」な状況の持ち主としての人間関係の名詞句や「繁忙」判断の背景としての時間や場所などを表す名詞句が使われ、N1項目には「繁忙」判断の原因や対象を表す名詞句として主に仕事などに関する具体的な人間活動の内容を表す名詞句が使われる場合に多く見られる。この総主構文の用法は「繁忙」判断の原因や対象を表す総括的な表現と言える。次はその用例である。

www.kci.go.kr

(9)彼は仕事が忙しい。(IPAL185)
(10)年末年始は年賀状集配業務が忙しい。(IPAL185)

当然この文型のN1項目の名詞句の助詞は次のように「で」や「に」への交替が可能である。

(9-1)彼は仕事で忙しい。
(10-1)年末年始は年賀状集配業務で忙しい。
(9-2)彼は仕事に忙しい。
(10-2)年末年始は年賀状集配業務に忙しい。

一方、この「N2は・が＋N1で＋形」や「N2は・が＋N1に＋形」や「N2は(が)＋N1が＋形」などの文型のN2項目の「繁忙」判断の背景と「繁忙」な状況の主体の両方が提示されると「5.」の「N3は(が)＋N2は(が)＋N1で＋形」のような3項目文型になる。そのため、これらの3種類の2項目文型は次のように「N3は(が)＋N2は(が)＋N1で＋形」文型への変換が可能である。

(6-3)神父は(今は)まもなく琉球経由で帰国する支度で忙しい。
(7-2)(その時は)深津は食べるのでいそがしかった。
(9-2)彼は(週末は)仕事が忙しい。

2.1.4. 「視覚」判断の原因

この用法は「視覚」の意味を表す形容詞のうち「明暗」の意味を表す本義の形容詞「明るい、暗い」や「色」の意味を表す形容詞「青い、赤い、黄色い、黒い、白い」などに多く見られる表現である。「繁忙」判断の原因を表す名詞句は助詞「で」を取ってN1項目に使われる。

(11)その女の姿は逆光で暗かった。(霧の101)
(12)線路際の土手が霧で白い。(最長273)

この文型のN2項目には「視覚」判断を受ける主体として「その女の姿、線路際の土手」などのような自然物や時期を表す意味の名詞句が使われる。このN2項目の名詞句は「視覚」判断の出所としての役割を持つ。N1項目には「視覚」表現の原因の性格として「逆光、霧」などのように主に自然現象を表す名詞句が使われる。

この用法も次のようにN1項目とN2項目の二つの名詞句の項目の順序の交替は比較的に自由であるが、助詞「で」の「に」への交替は不自然な場合が多い。この点は「2.1.1.」の「特異」判断や「2.1.2.」の「意識感覚」判断の用法と同様な特徴である。

www.kci.go.kr

(11-1)逆光でその女の姿は暗かった。
(12-1)霧で線路際の土手が白い。
(11-2)*その女の姿は逆光に暗かった。
(12-2)*線路際の土手が霧に白い。

2.1.5. 「嗅覚」判断の原因

この用法は「嗅覚」の本義の意味を表す形容詞「臭い」に多く見られる表現で、とりわけ匂いの原因を表す名詞句が助詞「で」の形でN1項目に使われる場合が多い。

(13)この部屋は煙草で臭い。(IPAL495)
(14)小屋は汗と体臭と息の臭いとでくさかった。(女の180、 応用)

この文型のN2項目には「部屋、小屋」などのように主に「嗅覚」判断を受ける主体としての空間的な性格の意味の名詞句が使われる。「視覚」判断の原因の用法と同様にこのN2項目の名詞句は「嗅覚」判断の出所としての役割を持つ。N1項目には「嗅覚」判断の原因の性格として「煙草、体臭、息の臭い」などのように主に自然現象を表す名詞句が使われる。

この文型の二つの名詞句の項目は次のようにその順序の交替が比較的に自由である。ただし、助詞「で」の「に」への交替は不自然な場合が多い。この点は「2.1.1.」の「特異」判断、「2.1.2.」の「意識感覚」判断、「2.1.4.」の「視覚」の用法と同様な特徴である。

(13-1)煙草でこの部屋は臭い。
(14-1)汗と体臭と息の臭いとで小屋はくさかった。
(13-2)*この部屋は煙草に臭い。
(14-2)*小屋は汗と体臭と息の臭いとにくさかった。

2.2. 「特異」判断の背景

この用法は「特異」の意味を表す本義の形容詞「珍しい」に多く見られる表現である。「2.1.1.」の「特異」判断の原因のところでも述べたように「特異」の意味を表す代表的な本義的形容詞は「おかしい、珍しい」の2語で、「おかしい」は主に「特異」判断の原因の用法に、「珍しい」は主にこの「特異」判断の背景の用法に多く現われる。この用法の「特異」判断の背景を表す名詞句は助詞「で」を取ってN1項目に使われる用法である。

(15)これほど堂々とした並木の道は、少なくとも関西ではめずらしい。(地球163)
(16)こうした生活様式は、東京でも珍しかった。(かあち88)

www.kci.go.kr

この文型のN2項目には「道、生活様式」などのような「特異」判断の対象を表す意味の名詞句が使われるが、その意味に特別な制限はなく、人間活動の様子や結果、または自然現象などのようなあらゆる意味の名詞句が使われる。N1項目には「特異」の判断の背景を表すものとして「関西、東京」などのように主に具体的な空間を表す意味の名詞句が使われる。

この文型の助詞「で」の項目はN1項目に来るのが一般的ではあるが、次のように文全体の意味をそれほど変えずに名詞句の項目の順序を変えることも可能である。

(15-1)少なくとも関西ではこれほど堂々とした並木の道はめずらしい。
(16-1)東京でもこうした生活様式は珍しかった。

このような名詞句の項目交替文の文型「N2で＋N1は・が＋形」は次のような「特異」判断の空間的な背景を表す「N2に＋N1は・が＋形」文型の用法と類似した特徴を持つ。

(17)エナ(ＥＮＡ、国立行政大学)には、労働者の孫はいても息子、娘は珍しい。(色め219)
(18)この地方に地震は珍しい。(IPAL1103)

これは空間の意味を表す助詞「で」と「に」との接点と言える。当然助詞「に」は次のように「で」との交替が可能である。

(17-1)エナ(ＥＮＡ、国立行政大学)では、労働者の孫はいても息子、娘は珍しい。
(18-1)この地方で地震は珍しい。

一方、このような「特異」の意味を表す形容詞「珍しい」は「その存在の希少性」という面で「3.1.1.」の「不在」判断の対象を表す形容詞「ない」の「N2で＋N1は・が＋形」文型と意味的な接点を持つ。「N2は・が＋N1で＋形」文型の述語形容詞「珍しい」の表す意味特徴はその「希少性」にあるが、それを「全面的不在」の意味に変え、次のような「ない」文にすることも可能である。

(15-2)これほど堂々とした並木の道は、少なくとも関西ではない。
(16-2)こうした生活様式は、東京でもなかった。

2.3. 「満足充分」判断の基準

この用法は「満足充分」の意味を表す形容詞「いい」の最も基本的な表現で、「満足充分」判断の基準を表す名詞句が助詞「で」を取ってN1項目に使われる。

www.kci.go.kr

(19)ボスはひとりでいい。(瞑れ113)
(20)私は一生独身でいい。(骨よ240)

この文型のN2項目には「ボス、私」などのような「満足充分」判断の対象としての主題提示の性格の意味の名詞句が、N1項目には「ひとり、独身」などのように「満足充分」判断の基準の性格の意味の名詞句が使われる。二つの名詞句の意味特徴には特別な制限はなく、人間や人間活動、または自然現象などのようなあらゆる意味のものが使われる。ただし、述語の判断の基準を表すN1項目には程度性を帯びた意味の名詞句が使われることが多い。

この文型の二つの名詞句の項目は次のようにその順序の交替、1項目への縮約、助詞「で」の「に」への交替などはすべて不自然な場合が多い。これは「3.2.」の「可能性、調子」判断の基準の用法とは異なる特徴である。「可能性、調子」判断は「満足充分」判断と同様に助詞「で」の「に」への交替は不自然な場合が多いが、二つの名詞句の項目の順序の交替や1項目への縮約は可能な場合が多い。「満足充分」判断を表す形容詞「いい」は主題に対する断定的な肯定判断の働きを持つためN1項目の名詞句との結合の程度が強くなることと考えられる。このような特徴は「満足充分」判断の基準の用法を「3.」の「N2で＋N1は・が＋形」文型ではなく「2.」の「N2は・が＋N1で＋形」の文型に下位分類した理由でもある。

(19-1)*ひとりでボスはいい。
(20-1)*一生独身で私はいい。
(19-2)*ボスのひとりはいい。
(20-3)*私の一生独身はいい。
(19-3)*ボスはひとりにいい。
(20-2)*私は一生独身にいい。

3. 「N2で＋N1は・が＋形」

「N2で＋N1は・が＋形」文型の持つ主要な用法は述語判断の対象と述語判断の基準の2種類である。述語判断の対象の用法は「不在」判断や「能力」判断を表す形容詞述語文に、述語判断の基準の用法は「可能性」判断や「調子」判断を表す形容詞述語文に多く見られる。助詞「で」はN2項目に使われ、述語形容詞の判断の対象や基準の働きをする。このような2種類の用法の区別は主に述語形容詞と共起するN1項目の名詞句の意味特徴によって分けられる。

3.1. 「不在、能力」判断の対象

収集用例の使用頻度の傾向からすると形容詞述語文の文型における助詞「で」の用法の中で最も多く見られるのがこの述語判断の対象の用法である。この用法は主に「不在、能力」などの意

www.kci.go.kr

味を表す形容詞述語文で多く現われる。これらの2種類の用法は相互に共通点が多い。また、「2.2.」の「特異」判断の背景や「3.2.」の「可能性、調子」判断の基準の用法とも共通点が多い。

3.1.1. 「不在」判断の対象

この用法は「不在」の意味を表す形容詞「ない」に多く見られる表現で、「不在」判断の背景を表す名詞句が助詞「で」を取ってN2項目に使われる用法である。

(21)中国では救急車がない。(紅衛84)
(22)北国では、よいフグが獲れないせいか、フグを料理して食う習慣がない。(はまな252)

この文型のN2項目には「不在」判断を受ける主体を表す名詞句として「中国、北国」などのように主に具体的な空間を表すものが使われる。N1項目には「救急車、習慣」などのような「不在」判断の具体対象を表す意味の名詞句が使われるが、その意味に特別な制限はなく、人間活動の様子や結果、または自然現象などのようなあらゆる意味の名詞句が使われる。

この用法は「2.2.」でも触れたように「特異」判断の背景を表す形容詞「珍しい」の「N2は・が＋N1で＋形」文型との接点を持つ。それは「珍しい」の「存在の希少性」と「ない」の「全面的不在」という意味特徴の類似性から来る特徴であるが、その結果次のようにこの文型の二つの名詞句の項目の順序の交替や形容詞「ない」の「珍しい」への交替が可能な場合が多い。

(21-1)救急車は中国ではない。
(22-1)よいフグが獲とれないせいか、フグを料理して食う習慣は北国ではない。
(21-2)中国では救急車は(が)珍しい。
(22-2)北国では、よいフグが獲とれないせいか、フグを料理して食う習慣は(が)珍しい。

また、この用法の助詞「で」は「特異」判断の空間的な背景を表す「N2に＋N1は・が＋形」文型の助詞「に」の用法と類似した特徴を持つ。そのため、助詞「で」の名詞句は次のように文の結果的な意味をそれほど変えずに「に」と置き換えることが可能である。この点も「2.2.」の「特異」判断の背景を表す形容詞「珍しい」と類似した特徴である。このように「不在」の意味を表す「ない」と「特異」の意味を表す「珍しい」とはその意味特徴の近似性から文型と用法の面でも共通点が多いのである。ただし、例文(23)と例文(23-1)のようにこの文型のN1項目に活動性を強く帯びている名詞句が来る場合は助詞「に」は使いにくくなる。

(21-3)中国には救急車がない。
(22-3)北国には、よいフグが獲とれないせいか、フグを料理して食う習慣がない。

www.kci.go.kr

(23)心の中ではボヘミアズムとピューリタニズムの闘いがやむことがなかった。(天声830227)
(23-1)?心の中にはボヘミアズムとピューリタニズムの闘いがやむことがなかった。

一方、この用法の助詞「で」の項目は次のように「は」の形に主題化して表すことも可能である。これは「は」を使って「ない」判断の背景としての空間の名詞句を具体化して強調する表現である。「不在」判断の対象の用法は多くの面で「2.2.」の「特異」判断の背景の用法との共通点が多いが、「特異」判断の背景の場合はこのような総主構文への変換は不自然な場合が多い。つまり、「珍しい」は助詞「で」との結合度が強いのである。

(21-4)中国は救急車がない。
(22-4)北国は、よいフグが獲とれないせいか、フグを料理して食う習慣がない。
(15-3)?少なくとも関西はこれほど堂々とした並木の道は、めずらしい。
(16-3)?東京はこうした生活様式は、珍しかった。

3.1.2. 「能力」判断の対象

この用法は「能力」の意味を表す転義の形容詞「強い」に多く見られる表現で、「能力」判断の背景を表す名詞句が助詞「で」を取ってN2項目に使われる用法である。

(24)モントリオールのオリンピックで見たように、スポーツで社会主義国は強い。(逆転105)
(25)お酒では彼がめっぽう強い。(用法367、応用)

この文型のN2項目には「能力」判断の背景を表す名詞句として「スポーツ、お酒(を飲むこと)」などのように主に人間の行為を表すものが使われる。N1項目には「社会主義国、彼」などのように「能力」判断の対象で、N2項目の行為の主体を表す名詞句として主に人間や組織の意味のものが使われる。

この用法の二つの名詞句の項目も次のように文の意味をそれほど変えずにその順序の交替が可能な場合が多い。また、この用法の助詞「で」の項目を「は」に主題化して「N2は(が)＋N1が＋形」文型にすることや「で」の「に」への交替も可能な場合が多い。ただし、二つの名詞句の項目の1項目への縮約は不自然な場合が多い。

(24-1)モントリオールのオリンピックで見たように、社会主義国はスポーツで強い。
(25-1)彼はお酒ではめっぽう強い。
(24-2)モントリオールのオリンピックで見たように、社会主義国はスポーツが強い。
(25-2)彼はお酒がめっぽう強い。
(24-3)モントリオールのオリンピックで見たように、スポーツには社会主義国が強い。

www.kci.go.kr

(25-3)お酒には彼がめっぽう強い。
(24-4)*モントリオールのオリンピックで見たように、スポーツでの社会主義国は強い。
(25-4)*お酒での彼はめっぽう強い。

3.2. 「可能性、調子」判断の基準

「可能性、調子」判断の基準の用法は「可能性」判断と「調子」判断の手段や方法、「調子」判断の原因や理由の表現に多く見られる。これらの述語判断の基準を表す各用法にはN1項目の助詞「で」の役割、名詞句の項目の順序の交替の可能性、二つの名詞句の1項目への縮約の可能性、助詞「で」と「に」との交替の可能性など様々な面で共通点が多いが、各意味グループの述語形容詞の意味によって共起する名詞句の意味が異なることは注意すべき点である。

3.2.1. 「可能性」判断の基準

この用法は「可能性」の意味を表す本義の形容詞「難しい、易しい」と転義の形容詞「危ない、軽い、きつい、厳しい」などに多く見られる表現で、特に否定的な「可能性」判断の形容詞に著しい。「可能性」判断の手段や方法としての基準を表す名詞句は助詞「で」を取ってN2項目に使われる。

(26)一日ではやはりベースキャンプを片付けるのは、なかなか難しい。(魔頂87)
(27)その程度の安定では、しんから満ち足りた生活は難しい。(銀の97)

この文型のN2項目には「～方法、～時間、～程度」などのように「可能性」判断の手段や方法を表す意味の名詞句が使われ、述語の判断の条件としての基準を提示する。N1項目には「行為、仕事、生活」などのように主に人間の行為や活動そのものの意味を表すものが使われる。

この用法の二つの名詞句の項目は次のように文全体の意味をそれほど変えずにその順序の交替が可能である。また、二つの名詞句の項目を一つに縮約することも自由である。ただし、助詞「で」の「に」への交替は時間的な基準を表す表現を除いては不自然な場合が多い。

(26-1)ベースキャンプを片付けるのは一日ではやはりなかなか難しい。
(27-1)しんから満ち足りた生活はその程度の安定では難しい。
(26-2)一日でベースキャンプを片付けるのは、なかなか難しい。
(27-2)その程度の安定での満ち足りた生活は難しい。
(26-3)?一日にはやはりベースキャンプを片付けるのは、なかなか難しい。
(27-3)*その程度の安定には、しんから満ち足りた生活は難しい。

www.kci.go.kr

3.2.2. 「調子」判断の基準

この用法は「調子」の意味を表す本義の形容詞「危ない」と転義の形容詞「明るい、暗い」などに多く見られる表現で、「調子」判断の手段や方法及び原因や理由としての基準を表す名詞句が助詞「で」を取ってN2項目に使われる用法である。転義の形容詞「明るい、暗い」の中ではとりわけ「暗い」の用法が目立つ。まずは「調子」判断の手段や方法としての基準の用法である。次はその用例である。

(28)在来の工法ではこの工事はあぶない。(山河103、応用)
(29)人に挨拶もできない秀才や才媛では前途は暗い。(共に15)

この文型のN2項目には「調子」判断の手段や方法を表す意味の名詞句として「～工法、～方法,、～程度」などのように主にN1項目と述語形容詞の特徴を判断するための基準の役割を持つ具体的な意味の名詞句が使われる。N1項目には「調子」判断の対象を表すもので、「工事、前途」などのように主に人間の具体的な行為や活動の意味を表す名詞句が使われる。このように「調子」判断の手段や方法の用法は文の構造や語の意味などの多くの面で上記の「3.2.1.」の「可能性」判断の基準の用法と近い特徴を持つ。そのため「可能性」判断の基準の用法と同様に次のように二つの名詞句の項目の順序の交替や1項目への縮約などが可能な場合が多い。ただし、助詞「で」の「に」への交替は不自然な場合が多い。

(28-1)この工事は在来の工法ではあぶない。
(29-1)この学校の前途は人に挨拶もできない秀才や才媛では暗い。
(28-2)在来の工法での工事はあぶない。
(29-2)人に挨拶もできない秀才や才媛での前途は暗い。
(28-3)*在来の工法にはこの工事はあぶない。
(29-3)*人に挨拶もできない秀才や才媛には前途は暗い。

次は「調子」判断の原因や理由としての基準の用法である。次はその用例である。

(30)不況で会社が危ない。(用法28)
(31)低体温状態で命が危ないのです。(パルモ263)

この文型のN2項目には「調子」判断の原因や理由を表す意味の名詞句として「不況、～状態」などのように人間や自然の活動の結果を表すものが使われる。N1項目には「調子」の判断の対象を表すものとして「会社、命」などのように主に人間や組織及びその行為や活動の意味を表す名詞句が使われる。この用法の二つの名詞句の項目も次のように名詞句の項目の順序の交替や1

www.kci.go.kr

項目への縮約が可能な場合が多い。ただし、助詞「で」の「に」への交替は不自然な場合が多い。

(30-1)会社が不況で危ない。
(31-1)命は低体温状態で危ないのです。
(30-2)不況での会社は危ない
(31-2)低体温状態での命は危ないのです。
(30-3)*不況に会社が危ない。
(31-3)*低体温状態に命が危ないのです。

4. 「N3は(が)＋N2で＋N1が＋形」

「N3は(が)＋N2で＋N1が＋形」文型は述語判断の背景を表す用法で、「不在」の意味を表す形容詞「ない」、「数量」の意味を表す形容詞「多い、少ない」の文に多く見られる。「不在」と「数量」判断の各用法は文の構造や名詞句の意味特徴など多くの面でその特徴が類似しているためここでは両方を一括して扱うことにする。この文型はN3項目の述語の判断を受ける対象に対し、助詞「で」が使われるN2項目は述語の判断の具体的な背景を、N1項目は述語の判断の具体的な内容としての対象を表す。

(32)こんな見事な勝利は世界の海戦史の中でも例がない。(決断50、応用)
(33)当時は日本でも旧暦を使用することが多かった。(桃花144)
(34)魔法使いはマロリーの作品の中では数が少ない。(アーサ092)

この文型のN3項目には「不在」や「数量」判断を受ける主体の名詞句として「こんな見事な勝利、当時、魔法使い」などのように主に人間の行為やその時間的な背景の意味を表すものが使われる。N2項目には述語の判断の具体的な背景の名詞句として「世界の海戦史の中、日本、マロリーの作品の中」などのように主に人間活動の場を表すものが使われる。N1項目には述語の判断の内容を表す名詞句として「例、旧暦を使用すること、数」などのように主に数の意味を表すものが使われる。

この文型は次のようにN2項目とN1項目、またはN3項目とN1項目のそれぞれの二つの名詞句の項目を一つに縮約し、「N2は(が)＋N1が＋形」または「N2は・が＋N1で＋形」の2項目文型に変換することが可能である。

(32-1)こんな見事な勝利は世界の海戦史の中での例がない。

www.kci.go.kr

(33-1)当時は日本での旧暦を使用は(が)多かった。
(34-1)魔法使いはマロリーの作品の中での数は(が)少ない。
(32-2)こんな見事な勝利の例は世界の海戦史の中でもない。
(33-2)当時の旧暦の使用は日本でも多かった。
(34-2)魔法使いの数はマロリーの作品の中では少ない。

また、この文型の助詞「で」の項目の名詞句は述語判断の空間的な背景を表す「N2に＋N1は・が＋形」文型の助詞「に」の用法と類似した特徴を持つ。そのため文の結果的な意味をそれほど変えずに助詞「に」に置き換えることが可能である。

(32-3)こんな見事な勝利は世界の海戦史の中にも例がない。
(33-3)当時は日本にも旧暦を使用することが多かった。
(34-3)魔法使いはマロリーの作品の中には数が少ない。

さらに、この文型のN3項目とN2項目の二つの名詞句は次のように項目の順序の交替が可能な場合が多い。

(32-4)世界の海戦史の中でもこんな見事な勝利は例がない。
(33-4)日本でも当時は旧暦を使用することが多かった。
(34-4)マロリーの作品の中では魔法使いは数が少ない。

5. 「N3は(が)＋N2は(が)＋N1で＋形」

「N3は(が)＋N2は(が)＋N1で＋形」文型は「繁忙」の意味を表す代表的な形容詞「慌ただしい、忙しい」に多く見られる用法で、「2.1.3.」の「繁忙」判断の原因の「N2は・が＋N1で＋形」文型に「繁忙」判断の背景を表す名詞句と「繁忙」な状況の主体を表す名詞句を両方提示した表現である。「繁忙」判断の原因を表す名詞句は助詞「で」を取ってN1項目に使われる。

(35)彼は年の瀬は祭の準備で慌ただしい。(IPAL171、応用)
(36)今はお宅の御主人はお勤めでお忙しいのよ。(死の114、応用)

この文型のN3項目とN2項目には「繁忙」な状況の持ち主としての「彼、年の瀬、今、お宅のご主人」などのような人間関係の名詞句や「繁忙」判断の背景としての時間や場所などを表す名詞句が使われる。N3項目とN2項目の各項目の出現の順序に特別な決まりはない。N1項目には

www.kci.go.kr

「繁忙」判断の原因を表す名詞として「祭の準備、お勤め」などのように主に仕事などに関する具体的な人間活動の内容を表す名詞句が使われる。

この文型は次のようにN3項目とN2項目の二つの名詞句の項目の順序を交替することやN3項目とN1項目の二つの名詞句の項目を縮約して「N2は(が)＋N1が＋形」文型に変換することが可能である。

(35-1)年の瀬は彼は祭の準備で慌ただしい。
(36-1)お宅の御主人は今はお勤めでお忙しいのよ。
(35-2)年の瀬の彼は祭の準備が慌ただしい。
(36-2)今のお宅の御主人はお勤めがお忙しいのよ。

また、この文型の助詞「で」は「2.1.3.」の「繁忙」判断の原因の用法と同様に助詞「に」と類似した特徴を持つため次のように助詞を交替しても文の結果的な意味はほとんど変らない。

(35-3)彼は年の瀬は祭の準備に慌ただしい。
(36-3)今はお宅の御主人はお勤めにお忙しいのよ。

5. おわりに

以上、日本語の形容詞述語文における助詞「で」の文型と用法について文型論的な観点から分析と考察を行った。その結果、助詞「で」の主要な文型と用法は、「N2は・が＋N1で＋形」文型の「「特異、意識感覚、繁忙、視覚、嗅覚」判断の原因、「特異」判断の背景、「満足充分」判断の基準」など、「N2で＋N1は・が＋形」文型は「「不在、能力」判断の対象、「可能性、調子」判断の基準」など、「N3は(が)＋N2で＋N1が＋形」文型の「「不在、数量」判断の背景」、「N3は(が)＋N2は(が)＋N1で＋形」文型の「「繁忙」判断の原因」などであった。また、助詞「で」の使われる形容詞述語文の文型と用法のその他の特徴として、助詞「で」の文型は「抽象的関係、精神及び行為、自然現象」などの三つの上位意味グループのすべてから見られること、特に「繁忙」判断の原因の用法の特徴が多様なこと、助詞「で」の文型には1項目表現は見当たらないこと、各用法ごとの接点が多いこと、名詞句の項目の順序の交替が可能な場合が多いこと、助詞「に」との接点やお互いの交替が自由な場合が多いこと、二つの名詞句の項目が縮約の形で1項目に変換可能な場合が多いことなどが分かった。

今回の分析では他の助詞との接点や日本語の助詞全般の観点においての助詞「で」の位相などについてはその分析と考察が充分ではないところもある。このような点は他の助詞についての分析や

www.kci.go.kr

今後の助詞全般の観点からの分析、また、形容詞述語文全体の観点からの分析などの機会に見直して補うことにする。最後に今後の作業としては他の助詞の分析と連繋した研究、助詞全般の観点から文型と用法の研究、文型の観点からみた形容詞述語文の体系の把握などを考えている。また、今後の研究の発展的な応用としては文型による形容詞の意味分類と結合価の記述、他品詞述語文との比較などが考えられる。

【拙稿の出典情報】

- **「抽象的関係」の各下位項目**

(1995)「［関係］を表す形容詞述語文の構造」『早稲田日本語研究』3 早稲田大学国語学会
(1998)「形容詞 「ない」述語文의 文型과 用法」『日本学報』41 韓国日本学会
(1999)「「量」을 나타내는 形容詞述語文의 文型과 用法」『日本文化学報』6 韓国日本文化学会
(2000)「「時」를 나타내는 形容詞述語文의 文型과 用法」『日本語学研究』2 韓国日本語学会
(2001)「「力」을 나타내는 形容詞述語文의 文型과 用法」『研究論叢』7 永同大学校
(2002)「「良適」를 나타내는 형용사술어문의 문형과 용법」『Foreign Languages Education』9-3 韓国外国語教育学会
(2006)「「特異」を表す形容詞述語文の文型と用法」『研究論叢』12 永同大学校
(2007.a)「「可能性」を表す形容詞述語文の文型と用法」『日本語論叢特別号岩淵匡先生退職記念』日本語論叢の会
(2007.b)「「調子」を表す形容詞述語文の文型と用法」『日本学研究』22 檀国大学校日本研究所
(2008)「「真正」を表す形容詞述語文の文型と用法」『日本言語文化』13 韓国日本言語文化学会
(2010)「「形」を表す形容詞述語文の文型と用法」『日本学研究』29 檀国大学校日本研究所

- **「精神及び行為」の各下位項目**

(1997)「［感情］を表す形容詞述語文の構造」『早稲田日本語研究』5 早稲田大学国語学会
(2001)「「身上」を表す形容詞述語文の文型と用法」『日語日文学研究』39 韓国日語日文学会
(2002)「「詳不詳」を表す形容詞述語文の文型と用法」『早稲田日本語研究』10 早稲田大学国語学会
(2004)「「経済」を表す形容詞述語文の文型と用法」『研究論叢』10 永同大学校
(2005)「「意識感覚」を表す形容詞述語文の文型と用法」『日本語学研究』14 韓国日本語学会
(2006)「「繁忙」を表す形容詞述語文の文型と用法」『日本学研究』18 檀国大学校日本研究所
(2007)「「能力」を表す形容詞述語文の文型と用法」『日語日文学研究』61 韓国日語日文学会
(2008)「「賢愚」と「吉凶」を表す形容詞述語文の文型と用法」『日本語学研究』22 韓国日本語学会。

- **「自然現象」の各下位項目**

(2000)「視覚을 나타내는 形容詞述語文의 文型과 用法」『日本文化学報』9 韓国日本文化学会
(2004.a)「自然現象を表す形容詞述語文の文型と用法-「気象」の意味を中心に-」『日本学報』61 韓国日本学会
(2004.b)「自然現象を表す形容詞述語文の文型と用法-「聴覚、嗅覚、味覚」の意味を中心に-」『日本語学研究』11 韓国日本語学会
(2010)「「材質」を表す形容詞述語文の文型と用法」『日本研究』28 中央大学校日本研究所

www.kci.go.kr

● 三つの上位意味グループ
(2007)「「自然現象」を表す形容詞述語文の文型と用法」『日本語文学』35 韓国日本語文学会
(2008)「「精神及び行為」を表す形容詞述語文の文型と用法」『日本研究』36 韓国外国語大学校日本研究所
(2009)「「抽象的関係」を表す形容詞述語文の文型と用法」『日本語学研究』25 韓国日本語学会

【引用用例出典】

(アーサー)『アーサー王伝説紀行』加藤恭子 中公新書 1992(1929女)
(IPAL)『計算機用日本語基本形容詞辞書IPAL(Basic Adjectives)』情報処理振興事業協会技術センター 情報処理振興事業協会 1990
(色め)『色めがね西洋草紙』木村尚三郎 ダイヤモンド社 1977(1930男)
(女の)『女の一生(一部)キクの場合』遠藤周作 新潮文庫 1986(1923男)
(かあち)『かあちゃん太閤記』前田おま子 サンケイ出版 1980(1918女)
(逆転)『続・逆転の発想』糸川英夫 プレジデント社 1976(1912男)
(霧の)『霧の旗』松本清張 中公文庫 1975(1909男)
(銀の)『銀の座席』堀秀彦 朝日新聞社 1981(1902男)
(決断)『決断の条件』会田雄次 新潮選書 1975(1916男)
(紅衛)『日本に帰ってきた紅衛兵』春井康夫 潮文社 1991(1942男)
(最長)『最長片道切符の旅』宮脇俊三 新潮文庫 1983(1926男)
(山河)『山河慕情』小林高寿 教育報道社 1984(1926男)
(湿原)『湿原(上)』加賀乙彦 新潮文庫 1988(1929男)
(死の)『死の遍歴』中村真一郎 集英社文庫 1977(1918男)
(その年)『その年の冬』立原正秋 講談社文庫 1984(1926男)
(地球)『地球環境のなかの琵琶湖』吉良竜夫 人文書院 1990(1919男)
(瞑れ)『瞑れ、優しき獣たち』藤田宜永 中公文庫 1991(1950男)
(天声)『続・深代惇郎の天声人語』深代惇郎 朝日新聞社 1977(1929男)
(天声)『天声人語・人物編』辰濃和男 朝日新聞社 1987(1930男)
(天声)『天声人語・自然編』辰濃和男 朝日新聞社 1988(1930男)
(桃花)『桃花流水(上)』陣舜臣 中公文庫 1982(1924男)
(隣の)『隣の芝生イン・アメリカ』泉尚子 時事通信社 1985(1930女)
(共に)『共に生きるよろこび』阿部光子 水書坊 1991(1912女)
(はまな)『はまなす物語』三浦哲郎 講談社文庫 1982(1931男)
(パルモ)『パルモア病院日記』中平邦彦 新潮社 1986(1938男)
(骨よ)『骨よ笑え』有明夏夫 文春文庫 1987(1936男)

www.kci.go.kr

(用法)『現代形容詞用法辞典』飛田良文・浅田秀子 東京堂出版 1991
(魔頂)『魔頂チョモランマ』今井通子 朝日新聞社 1986(1942女)

【主要参考文献】

· 池原悟 他編(1997)『日本語語彙大系』岩波書店
· 石綿敏雄・荻野孝野(1983)「日本語用言の結合価」『朝倉日本語新講座 3 文法と意味 I』(付録2) 朝倉書店
· 言語学研究会編(1983)『日本語文法・連語論(資料編)』むぎ書房
· 情報処理振興事業協会技術センター(1990)『計算機用日本語基本形容詞辞書IPAL (Basic Adjectives)』情報処理振興事業協会
· 西尾寅弥(1972)『形容詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
· 仁田義雄(1980)『語彙論的統語論』明治書院
· 森田良行(1994)『動詞の意味論的文法研究』明治書院
· ————(1996)『意味分析の方法－理論と実践－』ひつじ書房
· 森山卓郎(1988)『日本語動詞述語文の研究』明治書院

www.kci.go.kr

要 旨

本稿は文型論の観点に基づき、日本語の形容詞述語文に使われる助詞「で」の文型と用法の特徴を分析考察した研究である。具体的には助詞「で」の使われる主要な文型について、各文型の主要用法、述語形容詞と名詞句の意味特徴と助詞の意味役割など各用法の文型的な特徴、他の用法や文型との関係、他の助詞との関係や接点などの内容についての分析と考察を目的とする。

分析の結果、日本語の形容詞述語文における助詞「で」の主要な文型と用法は、「N2は・が＋N1で＋形」文型の「「特異、意識感覚、繁忙、視覚、嗅覚」判断の原因、「特異」判断の背景、「満足充分」判断の基準」など、「N2で＋N1は・が＋形」文型は「「不在、能力」判断の対象、「可能性、調子」判断の基準」など、「N3は(が)＋N2で＋N1が＋形」文型の「「不在、数量」判断の背景」、「N3は(が)＋N2は(が)＋N1で＋形」文型の「「繁忙」判断の原因」などであった。

また、助詞「で」の使われる形容詞述語文の文型と用法のその他の特徴として、助詞「で」の文型は「抽象的関係、精神及び行為、自然現象」などの三つの上位意味グループのすべてから見られること、特に「繁忙」判断の原因の用法の特徴が多様なこと、助詞「で」の文型には1項目表現は見当たらないこと、各用法ごとの接点が多いこと、名詞句の項目の順序の交替が可能な場合が多いこと、助詞「で」は「に」との接点やお互いの交替が自由な場合が多いこと、二つの名詞句の項目が縮約の形で1項目に変換可能な場合が多いことなどが分かった。

キーワード：形容詞述語文、助詞、「で」、文型、用法、名詞句、語の意味

투　　고：2013. 11. 30
1차 심사：2013. 12. 14
2차 심사：2014. 1. 4

www.kci.go.kr